

学生たちは地域社会貢献活動を通して何を学ぶのか —大谷地区における景観維持活動から—

What Students Learn through Community Contribution Activities
: From the Activities of Landscape Maintenance in Ohya Area

西山 弘 泰 (宇都宮共和大学 専任講師)

本稿は西山ゼミにおける2年間の地域社会貢献活動の記録と、その活動を通して学生たちが何を学んだのかを検討することが目的である。西山ゼミでは、人と人との関わり、すなわち連携を重視し、口だけではなく行動することをスローガンに実践的な取り組みを展開してきた。具体的には、宇都宮市大谷地区において2年間、私有地の空き地の草刈りや利活用を行い、当地区が持続的に景観を維持する方策を検討した。一連の活動から、学生たちは主体性や自己肯定感を高めたとともに、多くの人々との連携によって、人の価値観や人生観の多様性、人とつながることの大切さを知ることとなった。

キーワード: 大谷地区, 宇都宮市, 景観維持, 空き地利活用, 地域社会貢献, 地域連携

1 はじめに

本稿は2018年度から2019年度にかけて、宇都宮共和大学シティライフ学部西山ゼミが宇都宮市大谷地区で展開した景観維持活動の記録と、当事業を通して見えてきた学生の地域社会貢献活動（以下、地域活動）によって得られた学びについて論じる。

宇都宮市中心部から北西約7kmに位置する大谷地区（宇都宮市大谷町）は、かつて大谷石の採掘業で栄え、近年では採掘場跡地が観光施設として注目され、首都圏を中心に多くの観光客が訪れる、宇都宮市随一の観光地になりつつある。その一方で、採掘場の跡地や職人が暮らしていた住居跡、工場跡や石の積出場などが空き地として残され、十分な管理が行われないことによって、草木が繁茂し当地区の景観を損ねている。大谷地区には採掘や侵食作用によって形成された大谷石の露頭や奇岩、そして大谷石でできた蔵や塀、家屋も数多くみられ、独特の景観が作りだされている。こうした大谷地区特有の貴重な景観が草木の繁茂によって損なわれることは宇都宮市の観光にとって大きな損失となる。

そこで西山ゼミでは大谷地区における私有地の草刈りを行う景観維持活動「大谷景観復活プロジェクト」を2018年4月に発足させた。以下では2018年度の活動を簡単に触れるとともに、

2019年度に実施した各種事業と2年間の活動で学生たちが得られた学びについて述べていく。

2 2018年度の活動と成果

2.1 大谷景観復活プロジェクトの発足

2018年5月、大谷石の文化が日本遺産に認定されたこともあり、大谷地区が注目を集めていた。ゼミ生とのディスカッションで「どうせやるなら目立つことをやってみよう」との意見から、大谷地区の観光振興について取り組むことが決定した。

5月から7月までは大谷地区の現状やそのほか基礎的な事項を把握するために2度の現地視察と新聞や書籍の収集に取り組んだ(写真1)。特に2回目の視察(7月7日実施)において、学生たちは当地区の最大の魅力である大谷石の景観が草の繁茂によって台無しになっていることに気が付いた。そうしているうちにゼミ生の一人から「草刈りをやってみてはどうか」との意見が出た。筆者自身「口だけではなく行動で示す」ことをゼミ活動を通して伝えたいと考えていたことから、学生の意見を取り入れ草刈りを実施することとなった。

草刈りをするとは言ったものの、決定してから実施までのひとは月間は学生、教員ともに苦勞の連続であった。草を刈るのは私有地であり、所有者に許可を取る必要がある。空き地に生えているのは刈るのが容易なイネ科の雑草ばかりではなく、ツル性植物(大谷にはクズが多かった)である。繁茂がすさまじく、手作業では効率が悪い。参加者を募る方法や草の処分方法など、いくつもの課題が西山ゼミの前に立ちはだかった。

こうした課題に対し、大谷地区や行政の方々のご協力が大きな助けとなった。その中でも宇都宮市経済部都市魅力創造課大谷振興室や大谷商工観光協会には多くの場面で助けていただき、何とか8月13日に大谷街道沿い3か所で草刈り実施にこぎつけることができた(写真2)。本学からは学生約40名、地域や行政からも応援に駆けつけていただき計50名での実施となった。また、下野新聞社やとちぎテレビの取材によって、西山ゼミの活動を内外にPRすることもできた。

8月に草刈りを無事終えることができたが、その一方で多くの課題も見えてきた。9月に秋学期がはじまり、ゼミ内で草刈り継続のための課題の洗い出しを行った。その結果が表1である。草刈りでは大谷商工観光協会を通じて地元造園業者の協力が得られたことにより機材が提供されたが、今後もそれを当てにするわけにはいかない。また軍手やビニール袋などの消耗品の費用も大きな負担となる。表1に示された課題解決の糸口として、市内で美化活動を行う団体や自治体の空き地・空き家に関連した施策事例の収集を10月から11月にかけて実施した。また、景観維持を積極的に行う場所を明確にするために、11月の休日と平日の計2日間、大谷地区の主要交差点6か所にビデオカメラを設置し、自動車(バイク含む)と自転車、歩行者の数を計測した。

2.2 大谷地区における持続的な景観維持システムの検討

11月までの活動を踏まえ、西山ゼミでは「大谷地区における持続的な景観維持システム」として「石の街大谷の景観維持を市民と行政が協働で推進する条例」(以下、大谷条例)の制定を提案した。大谷条例の適用範囲は観光関連施設が多い大谷町と田下町とし、それらの地域では「住



写真1 大谷地区の視察の様子

(2018年7月筆者撮影)



①大谷振興室との打ち合わせ



②事前の現地確認



③草刈り当日の様子



④草刈り当日の様子

写真2 草刈りの様子

(2018年8月筆者撮影)

表1 草刈りの継続に向けた課題

項目	内容
草刈り機の利用	道具(特に草刈り機)の貸し出しがスムーズにできるような仕組みづくり
費用の軽減	軍手やゴミ袋などの消耗品費用の軽減
草の処理方法	草やツタを中心としたゴミ処理方法の明確化と簡素化
草刈りの許可	地権者への連絡と許可方法の仕組みづくり
周知の方法	持続的な景観維持に向けたボランティアの確保
景観維持の場所	草刈りを積極的に行っていく場所の明確化
事故の補償	草刈り作業中の事故への対応

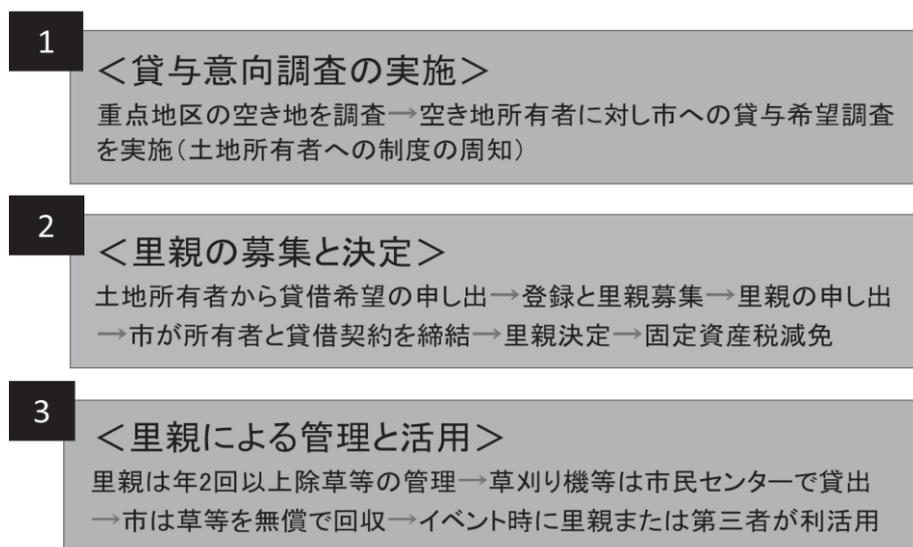


図1 西山ゼミが考案した「大谷条例」に基づく事業と実施の流れ

民や来訪者は空き地や空き家の放置、道路、広場でのごみのポイ捨て、歩きタバコ等をしないよう心掛け、観光地として相応しい環境、景観をつくり、そして維持するよう努める」こととした。

さらに自動車や人の往来が多い道路沿いを「景観保全重点地区」とし、これらの地域において、図1に示したような施策を行える範囲とした。この施策は、第一に重点地区に指定された範囲の空き地所有者に対し、土地の貸与希望調査が実施される。このアンケートは当条例に基づく制度を周知することも目的である。

第二に土地里親の募集と決定が行われる。土地所有者から土地を活用してもらいたい旨の申し出がある。市はその土地を登録し、土地里親を募る。それに応募した人や団体がいた場合、市が適切な里親であるかを審査し、審査を通過すると所有者との間で土地の使用貸借契約が交わされ、土地里親が決定する。貸与された土地の固定資産税は減免され、所有者は土地の管理に関わる費用や労力が軽減される。

第三に土地里親の空き地の管理義務と利活用についてである。里親は春季から秋季にかけて年2回以上空き地の草刈りを実施しなくてはならない。草刈り機やカマ、熊手などは城山地区市民

センターで貸し出され、草など空き地から出たゴミは市が無償で回収する。また、利活用に関しては、所有者との契約内容に応じ、決められた日数イベントや駐車場、収益活動などに利用される。

以上の施策を2018年12月20日に宇都宮市で開催された「大学生によるまちづくり提案発表会」にて発表し、第1位を獲得することができた。この成果が新聞記事などに取り上げられたことによって、大谷地区や大谷石に関わる方々に広く活動を知ってもらうきっかけとなった。またそのことで次年度の大谷地区での活動がしやすくなり、事業推進の原動力となった。

なお、上記提案の詳細については、うつのみや市政研究センター HP (<https://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/shisei/machi/kenkyu/renkei/1022243.html>) にて閲覧できるので、ご参照いただきたい。

3 大谷地区における空き地利活用に関する実践活動

3.1 前年度との相違点

2018年度はゼミ生たちの発意と行動によって、大谷地区の景観を維持することを目的に草刈りが行われた。その経験をもとに大谷地区において市民や学生が持続的に景観を維持していくための方策を考案し、宇都宮市に対し施策提案を行った。その提案を再び自分たちの行動によって実証すべく、2019年度の西山ゼミが再開した。2018年度との大きな違いは、大谷景観復活プロジェクトのメンバーに3名が加わったことである。この3名は2018年度、栃木県の魅力発信のために動画を制作していた西山ゼミのメンバーであった。このように2019年度は8名のメンバーで大谷景観復活プロジェクトの事業を行っていくことになった。

前年度との第二の相違点は、前述のように2018年度の提案内容を試験的に実行することである。具体的には、草刈りを行った空き地でイベント等を実施し、大谷地区の観光振興につなげていく。そうした方向性に至ったのは、「昨年のように単純に労力と時間、お金をかけて、他人の空き地を管理するのは、持続可能性があるとは言えない」という考えからである。こうしたいわばボランティア的な事業には、「やりがい」が事業の支えとなっている。毎年同じことの繰り返しでは、いつしかマンネリ化し、事業を継続できなくなる。そこで空き地の管理に対して、何かしらのインセンティブを与えれば、持続性が生み出せる。その持続性は「利活用によって担保される」と結論付けた。以上の観点から、2019年度の西山ゼミでは、引き続き草刈りによって大谷地区の私有地の空き地管理を行うとともに、その空き地を活用し、①イベントの実施、②収益活動、③常設の施設の建設を目指し、活動を再開した。

第三の相違点は、様々な個人、団体、企業とコラボレーションすることである。前年度の草刈りにおいても、行政、地域団体、企業にご協力をいただき事業を行ってきたが、より幅広い分野の組織、個人と関わり魅力ある事業を目指すこととした。また多様な人との関わりを持ち、何らかのかたちで就職活動につなげてほしいというねらいもあった。

表2 2019年度草刈りの概要

日にち	8月4日(日)9時から
場所	6地点
周知方法	ポスター掲示と回覧板による自治会加入者への周知
機材等の準備	大学コンソーシアムとちぎの「学生活動支援事業」と栃木県の「大学地域連携活動支援事業」の補助による機材等の自前調達
廃棄物の回収	宇都宮市廃棄物対策課が無償で回収。90ℓのポリ袋100枚の提供も受ける
連携組織	大谷商工観光協力会、大谷自治会、荒針自治会、大谷石材協同組合、うつのみやシティガイド協会
その他	草刈り終了後に地域住民と学生の交流バーベキューを実施

自治会用

宇都宮共和大学主催
草刈り & バーベキュー
8月4日(日) 午前9:00開始
※8:50 大谷市営駐車場集合

1部 9:00 大谷、荒針自治会内の草刈り
11:00 終了(天気や進捗により前後)

2部 12:00 学生と地域の交流バーベキュー
※会場は福田大谷自治会長宅敷地内
(大谷景観公園向い側)

参加費
無料

【草刈りについて】
・地区内6か所程度の私有地の草刈りをします。
・草刈り機と手作業による草刈りを行います。
・カマや軍手、冷えた飲み物は当方で準備します。
・事前申し込みは不要です。

【バーベキューについて】
・草刈りの慰労と大学生と地域の交流が目的です。
・バーベキューのみの参加も可能です。
・参加費は無料、事前申し込みも不要です。

ご協力のほどよろしくお願いいたします

お問い合わせ
宇都宮共和大学 専任講師 西山弘泰
E-mail: [redacted] TEL: [redacted]

一般用

宇都宮共和大学主催
草刈り & バーベキュー
8月4日(日) 午前9:00開始
※8:50 大谷市営駐車場集合

1部 9:00 大谷、荒針自治会内の草刈り
11:00 終了(天気や進捗により前後)

2部 12:00 学生と地域の交流バーベキュー
※大谷景観公園向い側

参加費
無料

【草刈りについて】
・地区内6か所程度の私有地の草刈りをします。
・草刈り機と手作業による草刈りを行います。
・軍手、飲み物は当方で準備します。
・参加希望の方は下記の電話、またはメールにて事前に8月2日までにお知らせください。

【バーベキューについて】
・草刈りの慰労と大学生と地域の方々との交流が目的です。
・バーベキューの参加は草刈りに参加された方に限り、ご参加いただけます。
・参加ご希望の方は、草刈りの参加申し込みの際に同時にお申込みください。
・一般参加の方は26名を限度とし、上限に達し次第参加をお断りさせていただきます。



お申込み先
宇都宮共和大学 専任講師 西山弘泰
E-mail: [redacted] TEL: [redacted]

図2 草刈り周知のためのチラシ(左が自治会配布用、右が一般配布用)

3.2 2019年度の草刈り

新メンバーが加わったことから、4月から5月上旬にかけては大谷地区において現地視察を実施した。そして5月下旬からはいよいよ8月の草刈りに向けた準備作業に取り掛かった。前年度は企画から実行までの期間が短かったために、周知などが十分に行えなかった。それを踏まえ、2019年度は①草刈りの地点を増やす、②ポスターやチラシで周知する、③機材等は自前で準備する、④自治会などと連携する、⑤草を刈った空き地を利活用する(交流バーベキューの実施)の5点について改善・工夫を試みた(表2)。

事業の実施に当たり、表2に記載された①ポスター等の作成と周知、②機材の自前調達と訓練、

③行政との打ち合わせ（地権者への連絡と廃棄物の処分）、④バーベキューの準備を5月から7月にかけて行った。

まず①では、大谷自治会と荒針自治会の回覧板で周知を行った。また城山地区市民センターにポスターを掲示させてもらい一般市民への周知も行った（図2）。②に関しては、機材の購入に栃木県の補助金¹⁾を充てることができ4台の草刈り機を購入した。一方、本番に備え操作方法や手順を身に付けておく必要があったため、7月に3度ほど大谷地区内で操作訓練を実施した。

③に関しては宇都宮市大谷振興室に草刈りを実施する一部の地点について地権者への連絡と了承、廃棄物対策課には刈った草やゴミの無償回収について打ち合わせが行われた。廃棄物の無償回収については、私有地からでた廃棄物であったことから、昨年度協議が難航したが、昨年の実績も考慮していただきスムーズに交渉を進めることができた。また、自治会の清掃活動などの際、無償で配布されているポリ袋の提供も受けた。実績の有無によって行政の対応が全く異なるのだということを知ることができ、大変良い勉強となった。いずれにしても、私有地の草の無償回収という特例が無理なく認められたこと、行政から物的な支援を受けられたことは、本ゼミの活動が公共性の高い事業として市に認められたことを意味している。

④に関して、大きな課題となったのはバーベキューの資金集めである。地元自治会との協議に



写真3 2019年度に実施された草刈りと交流バーベキューの様子
(2019年8月筆者撮影)

において、「より多くの住民を集めるためには無料であることが重要」とのご助言をいただいた。そこで協賛金を募り、それを食材費などに充てることになり、これまで関りのあった個人や組織に協賛のお願いにまわった。大変ありがたいことに計 77,000 円を集めることができ、潤沢な資金のもと無料でバーベキューを実施できることとなった²⁾。

8月4日の草刈り当日、9時から草刈りが開始された。学生75名と地域や市民合わせて約90名の参加となった。開会式後、6つのグループに分かれ作業が開始され、11時に作業を終了した。草刈り機などの機材の不足などが原因で計画通りに草刈りを終えることができない地点もあり、多くの課題を残す結果となったが、けが人や病人も出なかったことが何よりであった(写真3)。

草刈り終了後、ゼミ生たちは草刈りの後始末とバーベキューの準備に取り掛かり、12時から住民、市民との交流バーベキューが草刈りを実施した採掘場跡地で開催された。バーベキューには参加を希望した学生が46名だったのに対し、市民と地域住民はわずか5名であった。学生と地域住民との交流が目的であったが、十分にその目的を果たすことができず、課題が残った。

3.3 大谷マイニングサイト

3.3.1 企画から当日までの経過

西山ゼミにおける2019年度最大の企画イベントが「大谷マイニングサイト」である。この事業は8月4日に草刈りを行った場所を使って収益事業を行い、空き地利活用の有効性を実証するための社会実験である。8月4日に行ったバーベキューも利活用策の一つではあったが、誰でも参加できるわけではなく開放性に欠ける。また収益活動に結び付けることが大谷地区の持続的な活性化、景観維持のためには有効であること、大谷地区には飲食する場所が依然少なく、しかも気軽に立ち寄れる場所が少ないこと、さらには北側の大谷資料館ゾーンと南の大谷寺ゾーンの回遊性を高めることなどをねらい企画、実施するに至った。開催日は8月14日、15日の多客期とし、「大谷石の採掘場跡地でジャズを聴きながら、餃子とカクテルを堪能する」をコンセプトに据えた。

当事業は草刈りと同時並行で企画・準備が進められた。6月末にチラシ兼ポスターが完成し、マスコミへのプレスリリースと地元への説明が開始された。事業をはじめるにあたりジャズを演奏してくれるグループが必要である。筆者がNPO法人宇都宮まちづくり推進機構やNPO法人大谷石研究会などで関りがあった建築家のT氏が宇都宮市民ジャズオーケストラの中心メンバーであったことから、T氏を通して当オーケストラに演奏を依頼した。ジャズはメンバーの仕事との兼ね合いにより14日19時からとした。しかし夜の開催となると照明の準備が必要である。照明はT氏の紹介により市内在住の灯作家K氏を紹介していただき、照明の設置をお願いすることとなった³⁾。

飲食については、自分たちで販売するよりもプロの事業者を担当してもらった方が効率性や安全面から適当と考え、事業者に出店してもらうことにした。本学の卒業生で市内で居酒屋と担々麺店、餃子の製造・販売を行う株式会社JcTクリエイションズ(以下、(株)JcTクリエイションズ)のK社長に餃子などの食べ物や飲み物の販売をお願いした。カクテルに関しては、株式会社横

宇都宮共和大学西山ゼミPresents

★ 大谷マイニングサイト(大谷石採掘場跡)

★ **ビアガーデン& ジャズコンサート**

2019. 8. 14 wed

開演 19:00 20:00終了予定
20:00以降は別料金です
この日はありません 会場 大谷景観公園内いづれ採掘場跡地
宇都宮市大谷1225番地(資料館入口バス停隣接)

出演 **宇都宮市民ジャズオーケストラ**

販売 8.14~15 11:00~20:00はフード&ドリンク販売会場にて
宇都宮餃子会加盟「有限無餃子」の販売、各種ドリンク(ビール・酎ハイ、ソフトドリンク)、おつまみ販売、農産物直売を行っております。
また、コンサート会場にてビアガーデンをお楽しみいただけます。

料金 **無料** (会場となるドリンク&フード販売
会場でドリンクをお買い求めください)

お問い合わせ Tel. [REDACTED]
(宇都宮共和大学 専任講師 西山弘泰)
E-mail: [REDACTED]

ビアガーデン&コンサート会場




写真4 大谷マイニングサイトのチラシと当日の写真

(2019年8月筆者撮影)

倉本店が開発した「宇都宮カクテル」を準備した。

マスコミには前もってプレスリリースを行っていたことから、2つの新聞社と1つのテレビ局から取材の申し込みがあり、下野新聞社からは8月7日に前出し記事が掲載された。問い合わせ先として筆者の電話番号を記載したのだが、掲載されてから2日間の間に10件ほどの問い合わせがあり、その関心の高さがうかがえた。また、とちぎテレビには当日ビアガーデンの様子を取材していただき、計3回ニュースで放映された。

前日にテーブルや椅子、音響機材、照明の設置など会場設営を行い、14日の開催当日を迎えた。14、15日は台風が接近していたこともあり、時より強い雨が降るあいにくの天気となった。昼間は予想していたほどの集客がなかったものの、19時から始まったジャズコンサートには約200人の観客が訪れ会場は超満員となった(写真4)。15日は前日の疲れから営業開始を11時に繰り下げ、営業を開始した。夕方にはうつのみや大道芸フェスティバル実行委員会の方々に急遽来ていただけることになり、パフォーマンスを披露していただいた。

3.3.2 空き地の有効性

大谷マイニングサイトを実施した結果、集客方法をより工夫することで、収益目的であっても十分客を呼び込み、収益をあげられることが証明された。会場は大谷石の採掘場跡地であり、所有者がイベントなどに利用できるようステージを設置するなど、通常空き地とは条件が異なる。しかしながら、地区内には同様の採掘場跡地は無数に存在し、そうした場所を利活用する先駆例になったといえる。

飲食を出店した株式会社 JcT クリエーションズの K 社長も、会場に興味を持ち、今後も参加の意向を示してくれた。まだまだ実証実験を重ねる必要があるが、春季から秋季の土日・祝日など、継続的に何らかのイベントを実施し、「あそこに行けば、飲食できて楽しめる」と観光客に認知してもらうことができれば、安定した集客を見込める可能性もある。とはいえ、キッチンなどがなく同一の事業者が臨時出店する場合は、年 5 回程度までしか出店できないなど課題もある。その対策としては、設備を整えたキッチンカーで出店するか、異なる業者が輪番で出店するかなどの方法が考えられる。大谷マイニングサイトを実施したことによりある程度のノウハウは蓄積できた。今後も徐々に開催回数を増やしていき、民間事業者が独自にイベントを開催できるような仕組みを構築していきたい。

3.3.3 イベントで得られた教訓や課題

大谷マイニングサイトは成功した部分もある反面、大きな課題も残した。第一に駐車場の問題である。地方都市では多くの来訪者は自動車を利用する。開催前の問い合わせにも「駐車場はありますか?」といったものが多かった。大谷地区には 100 台程度止められる市営駐車場があるが、多客期には満車になってしまう。しかも会場からは 600m ほどの距離がある。周辺には大谷資料館の駐車場があるが、大谷資料館においても駐車スペースがひっ迫しているので、使わせてもらうわけにもいかない。駐車場のスペースをどのように確保するかが大きな課題である。

第二に地元への根回しが十分ではなかったことである。これが本イベント最大の失敗である。外部の人間が古く歴史のある地域で何か目立ったイベントをする場合には、地域の有力者（地域発展のために尽力されている方々）への丁寧な説明が欠かせない。筆者を含めその点に対する配慮が欠けていた。そのため新聞に掲載されてから、地元では当イベントに対して好ましく思わない意見があった。筆者らとしては「地域にとって有益なことをしている」という自負があるのだが、その前に時間をかけて丁寧に説明をし、地域の理解を得る必要があった。このことは、筆者をはじめゼミ生にとって大変良い教訓となり、今後の当地区での活動に大いに活かされることになる。事後に筆者が数人の方々に対しお詫びにまわり、理解を得ることができた。

第三に採掘場跡地における安全性への不安である。写真 4 などにもあるように、会場はトンネル状の採掘場跡地となっており、天井は大谷石の岩盤である。風化によって剥離が生じ、来訪者やスタッフがケガをしないとも言い切れない。また、地元には陥没事故の経験から、落盤を懸念する声も聞かれる。こうした安全対策に関しては、筆者らの範疇を越えてしまうので対処が難しいが、観光振興と採掘場跡地の安全性の両立も大きな課題である。

3.4 ポケットパークの建設

3.4.1 建設の背景

大谷マイニングサイトは実証実験という性格上、一過性のイベントであった。大谷地区をより魅力的な観光地へと発展させていくためには、観光客がいつ訪れても楽しめたり、魅力的であったりする施設やイベントが必要である。

大谷マイニングサイト時に、来店者に「大谷地区の観光振興に関するアンケートを実施した（補遺1参照）。開催両日の天候が芳しくなく、また店舗の運営に忙殺されたこともあり、24件しか回答を得ることができなかった。そうした課題はあるが、例えば「大谷地区の観光地として整備すべき点について教えて下さい」との回答で、最も多かったのが「ベンチなど休憩場所の整備」であった（表3）。また、

昨年度より計画していた「大谷を見渡せる高台」も次に多い結果となった。確かに大谷地区には大谷市営駐車場から大谷寺にかけて無料で休憩できるベンチをみかけない。また、大谷資料館においても駐車場からのアプローチが長いにも関わらず、その間に休憩できる場所がない。健脚な者であれば良いが、高齢者や子ども連れには優しくない観光地である。そこで空き地活用の第三弾として、空き地を無償で借り受け、そこに常設の休憩スペース（以下、ポケットパーク）を建設することになった。

3.4.2 建設予定地の選定

建設予定地にはこれまでに草刈りを行った場所で、かつ歩行者の往来が多い場所、景色が良い場所が最適である。そのすべての条件に当てはまる場所が大谷市営駐車場入口の空き地であった。大谷商工観光協会のI氏に所有者の方の電話番号と住所を聞き、所有者との交渉に入った。土地の無償貸与にはポケットパーク建設予定地周辺の草刈りと定期的な清掃などを条件に土地使用貸借契約書が完成した（契約内容の詳細は補遺2を参照）。

とはいえ、9月上旬から交渉に入り、法務局での登記と公図の入手など、契約書の完成まで1か月以上もの時間を要した。また、公図に記載された土地所有者の境界が正確にどこかわからなかったことなども交渉に時間がかかった原因となった。そして最も苦労したのが、筆者らと所有者の間での認識の違いを埋めることであった。所有者は周辺に有償で土地を貸しており、無料で貸すことへの抵抗感が強かった。ポケットパーク以外の場所も草刈りを担うということなどで折り合いがしたが、土地を無償で借り受けることの難しさを思い知った。このことは昨年度提案した「土地里親制度」が簡単に実現しないことを示す結果でもあった。

表3 大谷地区にあってほしい施設や施策

	回答数	回答率
ベンチなど休憩場所の整備	6	25.0
大谷を見渡せる高台	5	20.8
草木や廃屋対策	5	20.8
道路の拡張・整備	3	12.5
歩道の整備	3	12.5
多言語表記の案内	2	8.3
路線バスの本数の拡充	2	8.3
飲食店の整備・充実	2	8.3
バス運賃減額	1	4.2
土産物店の整備・充実	1	4.2
LRT(次世代路面電車)の建設	1	4.2
電柱の地中化	1	4.2
観光案内所の整備	0	0.0
ボランティアガイドの充実	0	0.0
餃子店の整備	0	0.0
特にない	9	37.5
その他	1	4.2

(来訪者へのアンケートより作成)



図3 ポケットパークの完成イメージ

表4 ポケットパークの仕様

場 所	大谷市営駐車場入口付近
広 さ	3m×3mの正方形
工程と仕様	<ul style="list-style-type: none"> ① 施工範囲の地面を30cm程度掘削 ② 砂利を20cmほど敷きローラーで転圧 ③ 高さ180×幅300×長さ900mmの大谷石を敷き詰める ④ 石と石の間の隙間はモルタルでふさぐ ⑤ 高さ400×幅400×長さ600mmの特注大谷石を12本周囲に並べる ⑥ ベンチ用大谷石には表面強化剤を塗り、座面は5mm厚の亚克力板を貼付

3.4.3 建設業者との連携

ポケットパークという名が示すように、スペースは数人が休憩できる小規模なものとした。図3はポケットパークの完成イメージ図であるが、地面には大谷らしさを演出するために大谷石を敷き詰め、ベンチには大谷石を設置する計画であった。また表4はその仕様の詳細である。

小規模な施設ではあるが、建設には土木の知識や重機が必要であった。無論、筆者や学生たちに土木に精通している者はいない。そこで市内大手のゼネコンである渡辺建設株式会社（以下、渡辺建設㈱）に当事業への協力を要請することとなった。なお、当社とのご縁は、大谷マイニングサイトに当社の社員H氏が来場しており、その折に名刺交換させていただいたことがきっかけであった。

企画提案は9月3日午前に渡辺建設㈱で行われた。西山ゼミからは3名、渡辺建設㈱からは3名にご同席いただき、西山ゼミのこれまでの活動と本企画についてプレゼンテーションを行った（写真5）。西山ゼミと企画について専門家から建設的な意見を多数出していただいた。協力の可



写真5 渡辺建設(株)担当者に企画提案している様子(左)と現場確認の様子(右)
(2019年9月筆者撮影)

否については、後日丸一日数名の人員と重機、ダンプを提供していただけるとの連絡があった。それと同時に補遺3にあるような設計図も制作していただくなど、多大な協力を得ることができた。

建設工事に向けた最後の作業は現地の下見である。9月26日に現場担当者を含め現地で下見を行った。その結果、重機を入れるために、道路使用許可が必要なことや、モルタルなど当方の準備が必要なものなどの確認が行われ、10月16日の工事実施が決定した。

3.4.4 敷石とベンチ用石材の確保

敷石の確保については、NPO 法人大谷石研究会の関係者から「知り合いの土木業者から擁壁に使われていた大谷石が出たので利用しないか」との連絡を受け、利用することとなった。9月27日と10月5日の2日間にわけて、計50本の大谷石を現地に輸送した。大谷石を廃棄するには多額の費用が必要になるため、土木業者(株式会社みどり)にとってもメリットがある。

石材は縦90cm、横30cm、厚さ18cmのいわゆる「六十石(ろくとお)」と呼ばれるサイズで、一本100kgほどの重量がある。宇都宮短期大学附属高等学校からリフト付きの2tトラックを借用しかなりの負担軽減となったが、トラックへの積み込みは人力である。両日ともに大多数のゼミ生が講義と重なっていたことから、教員1名、ゼミ生3名で行った。1回あたりたった25本程度の輸送であったがかなりの骨の折れる重労働であった。教員を含め作業に携わった学生は手作業時代の苦勞に想いを馳せた。

他方、ベンチ用の大谷石には、擁壁に利用されていた石材は見た目や衛生上の観点から利用できない。そこで大谷石材協同組合に寄付の要請を行った。組合事務局に企画書と依頼文を受理していただき、役員会にて協議後、協力していただける旨、連絡があった。

3.4.5 台風19号による工事の延期

9月下旬に入り工事に向けて大方の準備が整ったことから、プレスリリースを行った。10月2日にはゼミ生たちに対して下野新聞社から取材があり、工事当日にも再度取材が入ることになっ



写真6 被災当日（10月13日）のポケットパーク建設予定地の様子
（2019年10月筆者撮影）

た。また、警察署に道路使用許可申請を行い10月16日の工事に向け、準備は万全となった。

ところが10月12日夜から13日未明にかけて関東地方を襲った台風19号の豪雨の影響で、姿川流域を中心に大谷地区の広い範囲で浸水が発生し、壊滅的な被害が生じた。写真6にあるように、ポケットパーク建設予定地も流水によって地面がえぐられ、周辺には瓦礫やゴミが散乱する有り様であった。当日、現場に急行しすぐさま所有者に連絡。数日後、所有者からポケットパーク建設の中止の連絡があった。大谷地区の被害状況から少なくとも数カ月は工事ができる状況ではなかったこと、また工事協力予定の渡辺建設㈱が緊急の災害復旧工事対応に追われる事態となったこともあり、中止の申し入れを受け入れることとなった⁴⁾。

3.5 11月のイベント企画

3.5.1 アジアンフードフェス in 大谷

8月に実施した大谷マイニングサイトの経験を活かすため、11月に飲食イベントを実施することになった。イベント実施が決まったのは台風被害が生じる前の9月下旬である。今回は㈱JcTクリエイションズのK社長から、社長の同業者仲間に出店を募り、エスニック料理の飲食イベントとジャズなどのステージイベントを同時に行うというアイデアが提案された。

イベントのコンセプトは「大谷の観光国際化」である。確かに大谷地区は国内では認知度が向上しているが、日光などに比べると外国人観光客は少ない。これを機会に大谷地区におけるインバウンド振興の機運を高めようと企画された。一方、K社長は、出店者に大谷地区の魅力を知ってもらい、定期的に当地区で飲食店販売をしたいというのが真のねらいであった。また、西山ゼミは8月に不完全に終わった観光客へのアンケートを取ろうと考えていた。

表5に示したようにK社長経由でアジア5か国の店舗に出店を依頼した。ステージは大谷マイニングサイトで出演してもらった宇都宮市民ジャズオーケストラに加え、宇都宮短期大学音楽科や大道芸人などに出演してもらえるよう準備を進めていた。周知方法に関しては、前回の教訓を活かし、周辺の集客施設と連携し、入場券購入時に入場券と一緒にチラシを配布してもらえるよう交渉する運びとなっていた。

表5 アジアンフードフェス in 大谷の概要

日時	2019年11月4日（月・祝日）、後に11月23日（土）に変更
場所	大谷公民館前の空き地
周知の方法	他の集客施設入口での配布
内容	アジア5か国（中国、台湾、ベトナム、インド、イラン）が出店、ジャズや大道芸などのステージイベント、来訪者アンケート
連携組織	栃木県外国人まちづくり協会、大谷自治会

ところが台風被害により、11月4日の開催は23日に延期となり、23日の開催も地域の有力者たちから「水害によりイベントをする雰囲気ではない」とのご意見を多数いただいたことにより、次年度に延期することとなった。2020年3月現在においても、開催の目途はたっていない。

3.5.2 映画観賞会

8月のマイニングサイトの時に、プロジェクターで大谷石の天井にイベントのロゴを投影した。その経験から着想を得て、映画を採掘場跡地の天井に投影し、「寝そべりながら映画を鑑賞できないか」という意見がゼミ生から出された。また同イベントで連携した灯作家のK氏とも「映画祭をやったら面白いのではないかと準備の時に話をしていたことを思い出し、アジアンフードフェス in 大谷に合わせ、夜に映画観賞会をすることとなった。

連携団体は「鉍毒悲歌」制作委員会とリコージャパン株式会社栃木支社である。まず、「鉍毒悲歌」制作委員会⁵⁾は、灯作家のK氏が「鉍毒悲歌」のリメイク版である「鉍毒悲歌そして今」の制作に関わっていたことが縁で連携が決まった。また当団体代表であるT氏の「若い人に足尾銅山鉍毒事件のことを知ってほしい」という想いから、「鉍毒悲歌そして今」の上映が決まった。

一方、リコージャパン栃木支社は、2019年4月に宇都宮市の事業をきっかけに関わりが生まれ、地域社会貢献や大学との連携を積極的に行っていたことから、高性能プロジェクターの提供を依頼し、ご協力いただけることとなった。

10月に両連携団体との打ち合わせや投影テストなどを実施したが、アジアンフードフェス in 大谷の無期延期の決定に合わせ、無期延期となってしまった。新型コロナウイルスの状況次第ではあるが、当イベントのリーダーを務めていた学生が、卒業研究の一環として取り組むことになっている。

3.6 大谷地区の復興支援

先述のように台風19号は大谷地区に未曾有の被害をもたらした。大谷景観公園南側に架かる観音橋とその上流にある乙女橋は破壊され通行できない状況となっていた。大谷街道沿いの低地に建つ家屋は床上数十センチもの浸水となり、泥水に浸った家財や畳は使用不能となっていた（写真7）。

大谷地区における被害の情報がもたらされるや否や、13日昼、ゼミ生たちに大谷地区への救援活動に向かうことを伝え、メンバーを募った。アルバイトやゼミ員の親せきが被災したことも



写真7 大谷地区の被災当日と次の日の様子

(2019年10月筆者撮影)



写真8 大谷地区の復興支援活動の様子

(2019年10月筆者撮影)

あり、2名のみの参加であったが、14時ごろ現地に到着し、作業に取り掛かった。被災当日の現地の生々しい状況は、筆者や学生たちに大きな衝撃を与えた。

ゼミ生だけでは不十分と判断し、翌14日には1年生も現地に向かわせ、総勢30名で復旧作業にあたった⁶⁾。作業内容は家財や畳などの運び出しや瓦礫、砂泥の撤去などである(写真8)。大谷地区は高齢者が多く、重いものを運べない住民も多かったため、学生たちのボランティアは地区住民の方々に大いに喜んでいただいた。

復旧作業はこの後も週2回から3回のペースで11月初旬まで行われた。また1月にはポケットパーク建設予定地であった空き地の瓦礫の撤去作業も自治会や地元建設会社、近隣のベーカリーショップと連携のもと実施された。

3.7 学生&企業研究発表会での発表

11月30日に作新学院大学において「学生&企業研究発表会」(主催:大学コンソーシアムとちぎ)が開催された。西山ゼミではこの発表会を集大成と位置づけ、金賞の受賞を目指し2年間活動してきた。そもそも「学生&企業研究発表会」とは、大学コンソーシアムとちぎに加盟する県内の大学や短大、高専などの学生が、日ごろの研究や地域・社会活動の成果を発表するもので、2年に一度会場校を替え実施されている。2019年度は11の大学、短大、高専、職業訓練校から89件の発表が行われた(うちポスター発表19件)。

まず、午前中に5つの分野に分かれて発表が行われた。西山ゼミは「地域社会貢献分野A」に割り当てられ、12の発表の中から最優秀発表に選ばれた。そして午後に各分野の最優秀発表により「最優秀賞選考会」が実施された。残念ながら最優秀賞を獲得することはできなかったが、当初の目標であった金賞を受賞することができた(写真9)。



写真9 学生&企業研究発表会での発表と授賞式の様子

(2019年11月筆者撮影)

4 大谷景観復活プロジェクトより得られた学び

筆者自身もそうであったように、学生は圧倒的に世の中のことに對して無知である。高校までの常に解がある学校教育とは異なり、社会は絶対的な解は存在せず、わからなければ主体的に動き、自分で見つけ出すしかない。

ICT 技術の発達によって、ここ 10～20 年の間に人々が手にできる情報は格段に増えた。ネットを見れば自分が欲しい情報が手に入り、あたかもネット空間に解があるかのような気にさせられる。筆者らも知らず知らずのうちにネットに解を求めるようになっていくことに注意を払う必要があるが、学生たちにそうした傾向がみられることを危惧している。学生たちがネット情報から甘んじて受け身の姿勢にならないよう軌道修正してあげる。それが筆者らの仕事である。

解は時の移ろいや場所の違い、コミュニティによって変化する不完全なものである。よって常に最適なものを探し続ける姿が解と言えるのではないだろうか。さらには何かを試行錯誤しながら解を追い求めることこそが、生きることそのものと言える。それに気づかせてくれるのが、地域である。地域とはすなわち地域にいる多様な人々である。そのような人との出会い（機会）を作る場が、筆者の役割であると考えている。

以上のような問題意識や目的のもと、筆者は学生たちと地域に入り、実行と失敗を繰り返しながら共に成長する。これが西山ゼミのスタイルである。筆者のゼミ指導における最終到達地点は、教員が学生たちの主体性に基づいて、適当な地域（人）と関わる機会を作り、指導を地域に委ね、学生たちが行き詰った時のアドバイスや事業費提供（補助金の確保）など後方支援任務に徹することだと考えている。しかし、現状では地域との関わりを築くこと、自身の経験値をあげることで精一杯となり、学生たちにそうした場を提供できているとは言い難い。

4.1 多様な人々と関わる機会を提供する

筆者自身、地域活動についてはまだまだ試行錯誤の最中のため、学生の主体性に任せた指導ができていないのが現状ではあるものの、多様な人々との関わりは多く提供したつもりである。前任の大学のゼミ生から「地域活動の中でいろんな人、特に 40 代以上の人と多く関わらせてもらったので、（就職活動の）面接のときもあまり違和感なく話すことができました」や「就職活動で話すネタが尽きませんでした」という話を多く耳にした。たとえ学生たちが、指導教員のリードのもとで地域活動に関わっていたとしても、短期的な効果としては地域活動に関わっていると、否応なく話のネタが増えたり、多様な年代の人と話したりするのに慣れる。大谷景観復活プロジェクトに関わった学生たちも、これまで目に見えてこなかった成果が就職活動に発揮されると期待している。

一方、長期的な視点に立てば、地域の人と関わることで各人の価値観や仕事観、人生観などの多様性を知るきっかけとなる。それは学生自身がどのような仕事や働き方をしたいのか、何を軸にして生きていけばよいのかなどの「生き方」を学び、考えるきっかけとなる。つまり、キャリア教育につながると考えている。当事業においても、例えば 2019 年 10 月に大谷石採掘業者である T 氏の計らいにより、地域の方々との交流会が催された。学生たちは、地域の方々と酒を酌

み交わしながら各テーブルで会話に花を咲かせていた。こうしたざっくばらんに楽しく会話ができる場を今後もより多く提供していきたい。

4.2 まずは実行してみる

西山ゼミの二つ目のキーワードは「口だけではなく行動する」である。「口だけでは地域の人に信頼してもらえない」というのが、筆者が前任校で得た知見であった。地域活動をする場合、地域の方は教員やゼミ生がどのような思考やアイデアを出すかに期待しているわけではなく、「地域のために何をしてくれるのか」を注視している。データを取るための調査は別にしても、地域に浸りイベント開催などのアクションを起こそうとした場合は、地域からの信頼は必須である。地域から求めに応じて汗をかいて、はじめて地域でアクションを起こすことができるようになる。大谷景観復活プロジェクトの一年目に草刈りや地域イベントにボランティアに参加したのは、2年目に様々なイベントをするための布石だった。

いわゆる「実行力」は、大学生よりもむしろ社会に出た時に必要な態度である。しかし、社会人と学生との大きな差は、失敗が許されるか、そうではないかである。学生は、失敗も勉強として許される。成功すれば大いに称えられ、新聞やテレビの取材が入る。社会的に許されないこと以外は何でもできる。時間があって、移動も自由にできて、ある程度のお金がある学生は、最も恵まれた特権階級なのである。だから学生には失敗を恐れず、何でもいいからアクションを起こしてほしい。その実行によって生じる様々な困難を乗り越える過程が、学生たちにとって最大の学びとなっていく。実体験を伴う学びによって獲得された知は、書籍など実体験を伴わない知と異なり、身体に染みつき色あせることはない。またその経験は、書籍などを通してフィードバックすることで体系化され、より理解が深まる。日本の学校教育において広く行われている「体系を学ばせ実践をさせる」のではなく、「実践してから体系を学ばせる」や「実践しながら体系を学ぶ」方がはるかに効果的である。

以上のことを大谷景観復活プロジェクトに当てはめてみると、学生たちはまず現地を歩き、大谷地区の課題を捉え、その解決方法を「草刈りをする」とした。そして多大なご助力をいただきながらも実行する。2019年8月に行われたバーベキューでは、77,000円が集まった。そうした大金を集められたのは、学生たちが大谷地区のために汗をかいていることを地域の方々や本学の先生方が認識し、評価してくれているからである。一口3,000円の協賛金をお願いして回ると5,000円や10,000円を何のためらいもなく出してくれる。これが実行のもつ力である。

4.3 成功体験を積ませる

とはいうものの、実行力（主体的に実行しようとする）は経験に裏打ちされた成功体験を経験し、それによって生じる高揚感や多幸福感を味わったことがあるのかないかによっても変わってくると考える。地域活動は、資格のように自分の力を計る物差しがなく、自分が何のために地域活動をしているのかがわかりにくい。経験が少ない学生にとって、成果が見えにくいとモチベーションが上がらず、活動に身が入らないことも往々にしてある。

宇都宮市の場合、当市が毎年12月に開催する「大学生によるまちづくり提案発表会」は学生たちの成果を計ることができる物差しとして非常に有意義なコンペティションである。また、11月末には大学コンソーシアムとちぎ主催の「学生&企業研究発表会」がある。前者は宇都宮市の施策に資する提案をする場であり、アイデアが求められる。一方、後者は実際に何をしてきたのかという結果が問われる。違った性格のコンペティションが揃っていて、自分たちの成果を目に見えるかたちで評価してもらえ環境があるのはありがたいことである。

先述のように、西山ゼミでは2018年度は大学生によるまちづくり提案発表会に、2019年度は学生&企業研究発表会に出場し、高い評価を得ることができた。賞を取ることで自分たちの評価を外部、特に就職活動時に面接官に理解してもらうことが容易になる。また、目標ができモチベーションを保ちやすくなる。そして何よりも賞をもらうことで、自分たちのやっていることに自信が付き、それが実行力や主体性を育む。

他人から評価をしてもらうという意味では、受賞報告に出向くことも大切な行程の一つである。1年目の時に大学生によるまちづくり提案発表会の受賞報告とお礼のために、お世話になった方々を一つ一つ訪問した。まわった先々でそれぞれの立場から良かった点をあげてもらえる。受賞することだけでなく、何が良かったのかを具体的に教えてもらえることで、評価された理由を理解することができる。これもまた成功体験となり主体性を育んでいく。

確かに地域活動は、コンペティションの結果よりも過程が最も大切ではあるが、活動のモチベーションを持続させ高めるため、そして主体性を育むためには他者からの評価が必要になる。そうしたことから、大谷景観復活プロジェクトに関わった学生たちは、大小あろうが主体性を高められたのではないだろうか。

4.4 つながる力の重要性

「産学官連携」「地域連携」など「連携」がイノベーションの源泉として注目されて久しい。西山ゼミにおいても、特に2年目は連携が事業遂行の大きな原動力となった。一般的に大学や学生は利益を求めないという前提条件があるために、多様な個人、団体と連携が容易である。

大学や学生が持っている「つながる力」「つなげる力」を改めて思い知らされたのが、大谷マイニングサイトやポケットパークの建設であった。採掘場跡地で何か面白いことをやってみたいという学生たちの想いに、一人また一人と人が関わることで、小さな光が大きな光を放つようになっていく。協力者が一人増えるたびに、イベントの魅力が何倍にも高まっていく。「これがつながる力だ」と実感した。

大谷マイニングサイトの「大谷石の採掘場跡地でジャズを聴きながら、餃子とカクテルを堪能する」というコンセプトは、企画段階からそうであったわけではなく、クリエイターや事業者からのアイデアを寄せ集めた結果である。ポケットパークもアンケートの結果が発端ではなく、大谷石事業者の「大谷には休むところがなく、小さな休憩場があったらな」というつぶやきからである。一人では達成できないことでも、小さな力が寄り集まることで、化学反応が起き魅力的な大きな力に変化していくのである。これは協奏曲に似ている。一つ一つの楽器は地味でインパ

クトがなくとも、全く異なる種類の音色が合わさることで壮大で魅力的な音楽へと姿を変える。学生たちには、この「つながる力」を学んでほしかった。

当たり前のことであるが、人は全知全能ではない。しかし、人はそれぞれ得手不得手があり、各人が不足する力を補い合って組織や社会が成り立っている。より多くのことを知り、できるようになるように努力することは尊いことである。しかし、自分のできないことは、誰かを頼るのも生きるすべの一つである。そして困っている人がいれば、自分の力を貸してお返しをする。このことは、決して新しい考え方ではなく、人間がこれまで脈々と命をつないで来るために得てきた知恵である。

インターネットの普及によって、人は仮想空間の中で交流することができるようになった。筆者が学生たちに真に伝えたいことは、現実世界における様々なタイプの人間と良好な関係を築き、助け合っていくことが最も大切だということである。AIなどが今後より進化し、20年後には現在ある仕事の8割が消えるとも言われる。今後の人に求められる力は、人の感性に訴えかけるような、より強い感動を与えられる仕事である。ICT技術が発達しているからこそ、人が何を考えているのか、人が何を求めているのか、人が何に感動するのか。そのパターンを知っておくことが生きるすべとなっていく。そのチャンスを提供してあげることが、地域を教科書として扱う大学教員の仕事である。

【注】

- 1) 栃木県総合政策部「大学地域連携活動支援事業」の補助を受けた（「大谷景観復活プロジェクト—空き家・空き地を利活用した景観維持と観光振興—」）。
- 2) 宇都宮共和大学の先生方からも協賛をいただいた。
- 3) 宇都宮市民ジャズオーケストラと灯作家のK氏には、出演料と製作費をお渡しした。両者には当事業の公益性や学生のゼミ活動であることに関して深いご理解いただき、通常引き受けてもらえない金額でお願いした。また、地権者の自宅の電気や水道なども利用したことなどから、会場使用料も地権者にお支払いした。
- 4) ポケットパーク建設に最も適した地点での計画は頓挫してしましたが、2020年3月時点で新たな候補地を選定し、所有者に建設承諾を得ている。ただ、現段階では渡辺建設(株)との日程調整がつかず、建設日時は未定のままとなっている。
- 5) 足尾銅山鉛毒事件によって廃村になった旧谷中村の人々のインタビューを中心にしたドキュメンタリー映画で、それを再編集したのが『鉛毒悲歌そして今』である。
- 6) 1年生は「地域社会実習Ⅰ」の実習が14日に入っていたが、当初行う予定であった実習を取りやめ、大谷地区の復旧作業に振り替えた。

宇都宮共和大学シティライフ学部西山ゼミ

大谷地区の観光振興に関するアンケート

私たち宇都宮共和大学西山ゼミでは、観光客の皆様にご満足いただけるよう大谷周辺地域の魅力向上に努めております。つきましてはお忙しいところ恐れ入りますが、調査にご協力をお願いいたします。

問1 どちらから来られましたか。当てはまる数字に○をつけてください（以下同）。 1. 宇都宮市 2. その他の栃木県内 3. 県外⇒都道府県名をご記入ください（ ）
問2 あなたの性別と年齢、同伴者を教えてください。 性別 1. 女性 2. 男性 3. その他 年齢 1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60代 7. 70歳以上 同伴者 1. なし 2. 家族 3. 友人・知人 4. 学校や会社・町内会など 5. その他（ ）
問3 最後に（大谷に来る直前に）利用した交通手段を教えてください。 1. 自家用車 2. 路線バス 3. 観光バス(JRの定期観光バス) 4. 観光バス(JR以外) 5. タクシー 6. 自転車 7. その他（ ）
問4 大谷の滞在時間（予定を含む）を教えてください。 1. 1時間未満 2. 1時間台 3. 2～3時間台 4. 4時間以上 5. わからない
問5 今回、大谷に来たきっかけや理由を教えてください。（複数選択可） 1. 以前に来て良かったから 2. テレビ・雑誌などで目にするから 3. 日本遺産に認定されたから 4. 大谷の景観をみたいから 5. 大谷の地下空間に行きたいから 6. 魅力的なお店があるから 7. 家族や知人に勧められたから 8. SNSやネットをみて興味を持ったから 9. このイベント（大谷マイニングサイト）に来た 10. その他（ ）
問6 以下の中で本日巡った、または巡る予定の場所を教えてください（複数選択可） 1. 大谷資料館 2. 大谷寺 3. 平和観音 4. 大谷景観公園 5. 松が峰教会 6. 多気山不動尊 7. 宇都宮市内の餃子店 8. 道の駅ろまんちっく村 9. 宇都宮二荒山神社 10. 該当なし/未定
問7 昨晚宿泊された場所と今夜宿泊する予定の場所を教えてください。 昨晚 1. 宿泊していない 2. 日光・鬼怒川 3. 那須 4. 宇都宮市内 5. その他 今晚 1. 宿泊しない/未定 2. 日光・鬼怒川 3. 那須 4. 宇都宮市内 5. その他
問8 大谷をまわる中で、残念に思ったことを教えてください（複数選択可） 1. 奇岩を覆う草木 2. 景観に合わない色の看板や家屋 3. 殺風景な空き家や空き地 4. 魅力的な飲食店がない 5. 魅力的な土産店がない 6. 魅力的な観光スポットがない 7. 残念なことはない 8. その他（ ）
問9 大谷地区の観光地として整備すべき点について教えてください（複数選択可） 1. 草木や廃屋対策 2. 道路の拡張・整備 3. 歩道の整備 4. 多言語表記の案内 5. 路線バスの本数の拡充 6. バス運賃減額 7. 飲食店の整備・充実 8. 大谷を見渡せる高台 9. 観光案内所の整備 10. ベンチなど休憩場所の整備 11. 土産物店の整備・充実 12. ボランティアガイドの充実 13. 餃子店の整備 14. LRT（次世代路面電車）の建設 15. 電柱の地中化 16. 特になし 17. その他（ ）
問10 何か気が付いたことや、不便に思った点などあったらご記入ください（回答自由）

ご回答ありがとうございました。結果は栃木県や宇都宮市への政策提案等に活用させていただきます。

土地使用貸借契約書

貸主 [redacted] (以下甲) と借主 宇都宮共和国学長 須賀英之 (以下乙) は間に、次の通り、土地使用貸借契約を締結する。

第1条 甲はその所有する下記表示の土地を乙に貸出し、乙はこれを借用する。

1. 所在 宇都宮市大谷町字 [redacted]
2. 地目 宅地、公衆用道路
3. 地積 (使用する面積) 82.22 m²のうち9.0 m²

第2条 使用貸借の期間は、2019年10月1日から2022年3月31日までの2年6カ月間とするが、契約期間内でも、甲乙協議の上中途解約できるものとする。

第3条 賃料はないものとする。

第4条 乙は、土地に休憩所を設置し、観光客等へ利用させる目的で使用する。

第5条 乙は次の場合には、事前に甲の書面による承諾を受けなければならない。
 1. 使用目的を変更するとき
 2. 本件土地の現状を変更しようとするとき

第6条 乙が次の場合に該当したとき、甲は催告をなく直ちに本契約を解除することができる。
 前条又はその他本契約に違反したとき。

第7条 本契約に関する紛争については、甲の居住地の裁判所を第一審の管轄裁判所とする。

第8条

本契約が合意解除、解除その他の事由により終了したときは、乙は直ちに自己費用により構造物を除去し、本件土地を原状に回復したうえで、これを甲に明け渡さなければならない。

第9条

乙は、本件土地の明け渡しに際し、立退料その他名目の如何を問わず、甲に対し、一切金銭的な要求をしないものとする。

第10条

乙は、土地(第1条に示した地番)に繁茂する雑草や樹木を定期的(年2回程度)に刈り、土地の適切な維持管理に努めるものとする。また乙は、休憩所利用者が座したと思われる休憩所とその周辺の小さなゴミ(空き缶やビニールなど)は、定期的に見回りをし、回収、廃棄するものとする。

第11条

本契約に定めのない事項が生じたとき、又はこの契約条件の各条項の解釈につき疑義が生じたときは、甲乙誠意をもって協議の上解決するものとする。

以上、本契約成立の証として、本書を2通作成し、甲乙は署名押印のうえ、それぞれ1通を保管するものとする。

令和 元年 10月 1日

甲) 貸主

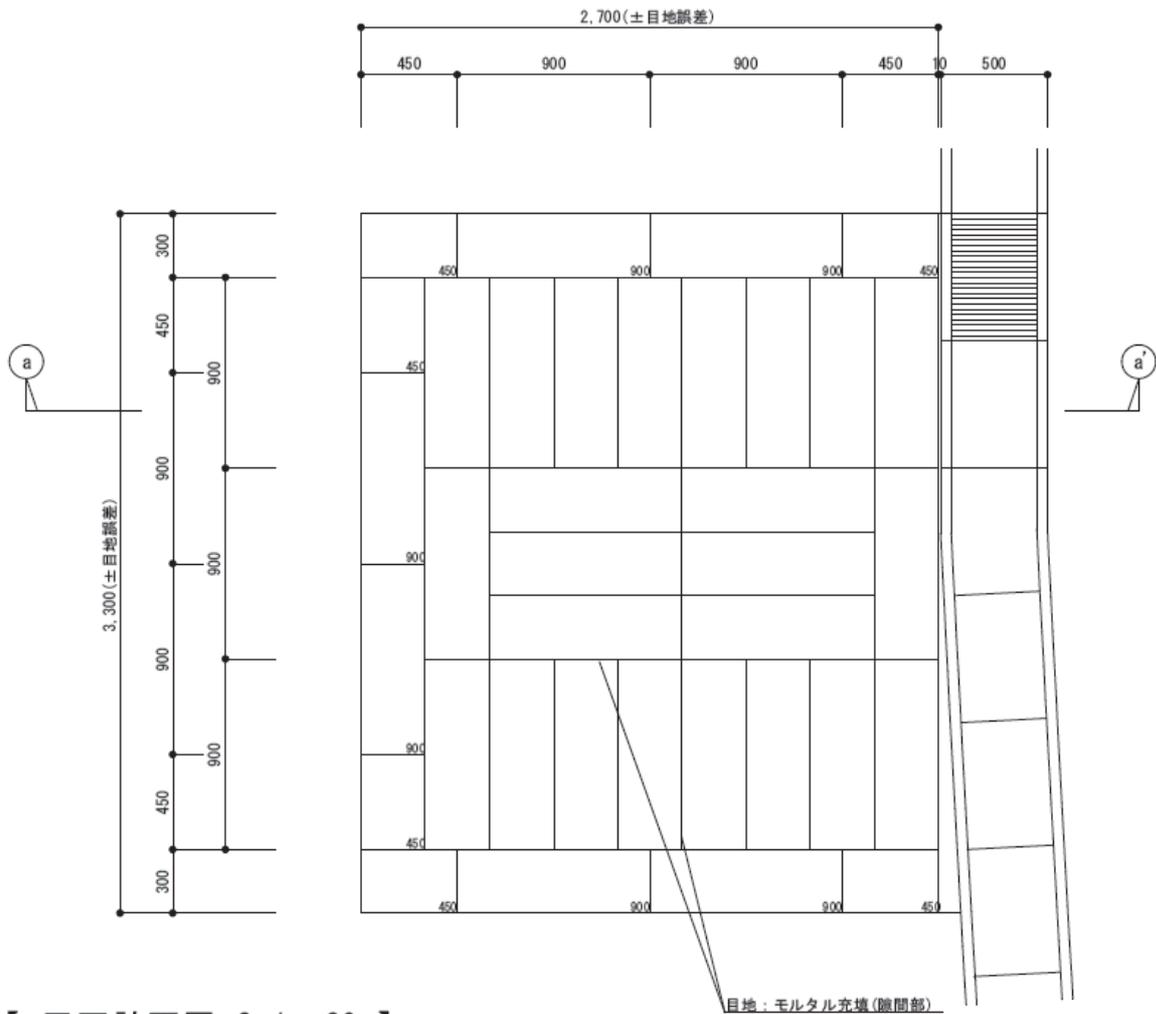
氏名

乙) 借主

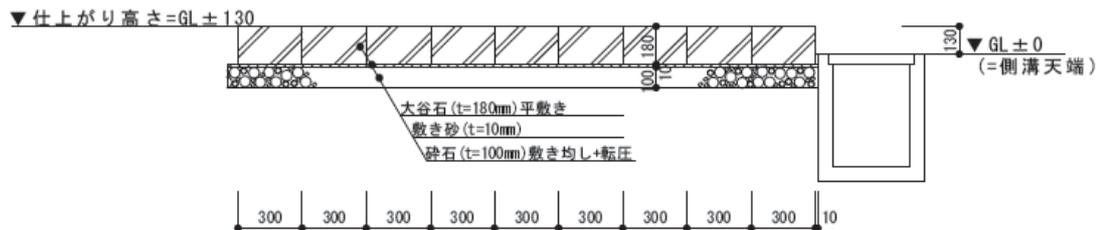
住所 宇都宮市大通り1-3-18

氏名 宇都宮共和国学 学長 須賀 英之 印

補遺2 ポケットパーク建設に関する所有者との土地使用貸借契約書



【 平面計画図 S=1 : 30 】



【 a-a' 断面図 S=1 : 30 】

- ※01大谷石 : t 180 × 300 × 900mmを使用した場合
- ※02敷き並べのデザイン : 任意とする
- ※03目地 : 再使用材料の制度により、現場対応とする

補遺3 ポケットパークの設計図

(渡辺建設のH氏が制作)

補遺4 「大谷景観復活プロジェクト」に関連した主な活動

年度	月	日	内容	場所	関連組織、個人
2018	5	25	第1回大谷地区視察	大谷寺など	—
	7	7	第2回大谷地区視察	カネホン大谷石採掘場など	大谷商工観光協会、うつのみや シティガイド協会
	8	6	宇都宮市大谷振興室講義	宇都宮共和大学	宇都宮市大谷振興室
		13	第1回大谷地区草刈り	大谷街道沿い空き地	大谷商工観光協会、うつのみや シティガイド協会
		14-16	大谷地区ナンバー調査	大谷市営駐車場など	—
		28	大谷地区ナンバー調査	大谷市営駐車場など	—
	9	3	OHYA UNDERGROUNDツアー参加		チキカチ計画
		9	「クリエイティブシティ・フォーラム」研究 発表会最優秀賞	オリオンスクエア	宇都宮市創造都市研究センター
	9	22	城山あったか活動参加	大谷市営駐車場周辺	城山中学校、NPO法人ナルク栃木
	9	27	大谷振興室との草刈り反省会	宇都宮市役所	宇都宮市大谷振興室
	10	2	NPO法人ナルク栃木へのヒアリング	宇都宮共和大学	NPO法人ナルク栃木
		27	ギネス世界記録「乾杯でギネス世界記録に挑 戦!!」に参加	大谷景観公園	宇都宮ブランド推進協議会
		27	フェスタin大谷にボランティア参加	大谷資料館	フェスタin大谷実行委員会
	11	1	「学生活動支援事業」補助金採択	—	大学コンソーシアムとちぎ
		3	大谷石山の登山道整備	大谷地区遠見崎	大谷自治会長F氏
		5	大学祭ゼミ発表にて最優秀発表賞	宇都宮共和大学	—
		17	19 大谷地区通行量調査	大谷地区6地点	—
		25	第5回関東学生景観デザインコンペティショ ン参加	表参道スクエア「宇都宮市民 プラザ」	関東学生景観デザインコンペティ ション実行委員会
	12	20	大学生によるまちづくり提案発表会にて第1 位	宇都宮市役所	宇都宮市市政研究センター
		26	事業関連団体受賞報告①	宇都宮市役所など	大谷振興室など
	1	8	事業関連団体受賞報告②	城山地区市民センターなど	大谷商工観光協会など
	2	4	宇都宮市佐藤市長との意見交換会	宇都宮市役所	宇都宮市長、市政研究センター
2019	4	19	ゼミ生朝日新聞単独インタビュー	宇都宮共和大学	朝日新聞
	4	13	リコージャパン栃木支社との清掃活動	問屋町周辺	リコージャパン栃木支社
	5	11	第3回大谷地区視察	大谷資料館、遠見崎など	—
		25	大谷石研究会総会にて研究発表	ホテルニューイタヤ	NPO法人大谷石研究会
	6	7	北戸室石下石材店採掘場見学		北戸室石下石材店
	7	5	「大学地域連携活動支援事業」補助金採択	—	栃木県総合政策部
		23	「学生活動支援事業」補助金採択	—	大学コンソーシアムとちぎ
		27	小野口家住宅見学	小野口家住宅	東信堂
		29	下野新聞社取材	宇都宮共和大学	下野新聞社
	8	4	第2回大谷地区草刈り 交流バーベキュー	大谷地区6か所 遠見崎下採掘場跡地	大谷自治会、荒針自治会、大谷商 工観光協会など
	8	14-15	大谷マイニングサイト	遠見崎下採掘場跡地	JcTクリエーションズ、和灯屋、 宇都宮市民ジャズオーケストラな ど
	9	3	渡辺建設プロジェクト説明	渡辺建設本社	渡辺建設
		19	世界クオリティのとちぎオンリーワンを探る シンポジウム出席	ナカニシ新本社	「大谷」の美しい村作り協議会
		26	渡辺建設と現場下見	ポケットパーク建設予定地	渡辺建設
		27	大谷石古材移動作業	みどり資材置き場など	株式会社みどり
	10	1	大谷地区キーマンとの交流会	呑食処澁谷	大谷石材協同組合、大谷地区の各 種事業者代表者など
		2	下野新聞社取材	宇都宮共和大学	下野新聞社
		13	大谷地区災害救援活動開始	大谷地区全般	大谷自治会
		16	ポケットパーク建設工事（延期）	ポケットパーク建設予定地	渡辺建設、大谷石材協同組合
		18	「大学地域連携活動支援事業」中間報告会	宇都宮大学	栃木県総合政策部
	11	3	大学祭ゼミ発表にて最優秀発表賞	宇都宮共和大学	—
		9	宇都宮大学LRT学生団体に対し大谷案内	大谷資料館など	宇都宮大学LRT学生団体
		23	アジアフードフェスin大谷（延期）	大谷自治会集会場前空き地	
			映画観賞会（延期）	遠見崎下採掘場跡地	「鉾毒悲歌」制作委員会、リコー ジャパン栃木支社
		30	「学生&企業研究発表会」にて金賞	作新学院大学	大学コンソーシアムとちぎ
	12	11	事業関連団体受賞報告①	宇都宮市役所など	大谷振興室など
	20	事業関連団体受賞報告②	城山地区市民センターなど	大谷商工観光協会など	
1	14	ポケットパーク建設予定地瓦礫撤去作業	ポケットパーク建設予定地	大谷自治会、THE STANDARD BAKERS、大久保、イリヤマ興業	
2	14	「大学地域連携活動支援事業」最終報告会	宇都宮大学	栃木県総合政策部	